教育ひょうご

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10－8
兵庫県教職員組合
発行人 兵庫県教職員組合代表者 川原芳和
編集人 西山修
電話 050（3538）2346
1部15円 年定価360円
（組合員の購読料は組合費の中に含む）

2020/12・15
No.2013
2面

日教組 第163回中央委員会
第26回参議院議員選挙にむけ
「古賀（こが）ちかげ」候補予定者を推薦決定！

古賀（こが） ちかげ

Web

Twitter

1966年　福岡県久留米市生まれ
　　高校卒業まで久留米で育つ
1989年　熊本大学教育学部音楽科を卒業
　　福岡県内の小中学校で教職に就く
2003年　福岡県教職員組合講師連絡会メンバー・
　　結成準備世話人として臨時採用教職員の
　　組合結成にむけとりくむ
2005年　福岡県教職員組合臨時採用教職員部が発足
2009年　福岡県教職員組合臨時採用教職員部長
2012年　福岡県教職員組合朝倉支部執行委員
2018年　日本教職員組合専門委員
2020年　日本教職員組合特別執行委員

11月30日、日教組第163回中央委員会が日本教育会館で開催され、兵庫から中央委員5人が参加した。

清水日教組中央執行委員長は、「多発する自然災害や新型コロナウイルス感染拡大を通して、日本社会のあり方、生活のあり方を根本から問い直し、すべての人々や子どもたちが安心して暮らしていける、持続可能な社会や教育を創造していかなければならない。私たちは今こそ教職員組合として、また、労働組合としての社会的役割を果たしていかなければならない。定数改善による少人数学級の実現や持ち授業時数の上限設定をはじめ、学力調査、免許更新制の廃止・見直しなど、教育予算や教育政策などの立法過程における、教職員や学校現場を背景にした意見反映は不可欠である。引き続き、日教組の政策制度要求の実現にむけ、日政連活動の推進をお願いするとともに、日本国憲法の理念のもと、平和と民主主義を守る闘い、社会を変える運動をともに展開していこう」とあいさつした。

中央委員会では、19年度の総括、当面するとりくみ、予算案等が審議された。また、「第26回参議院議員選挙・日政連議員候補推薦に関する件」では、福岡県教組出身の「**古賀ちかげ**」さんが推薦決定された。

この決定を受け、今後、兵教組においても、推薦決定の手続きをすすめていく。1年以内におこなわれる解散総選挙における日政連議員の必勝、そして第26回参議院選挙における日政連・参議院議員比例代表候補予定者の必勝にむけ、日教組と連携し、組織の総力をあげてとりくもう。

・第70次兵庫県教育研究集会
　分科会の様子

豆知識①　（1時間に何回？）

【換気の目安】“授業中に1回程度”

「学校環境衛生基準」によると、“CO_2濃度が1500ppm以下が望ましい”とされており、学年が上がるほど、体格差もあり目安となる回数も増えます。

小学校低学年	2．4回／1時間
小学校高学年・中学校	3．4回／1時間

豆知識②　（最適な室温？）

【室温・湿度の目安】“室温は18℃!?”

「学校環境衛生基準」（18年改訂）によると、
＊室温は17℃以上、28℃以下
＊相対湿度は30％以上、80％以下
★政府新型コロナ対策分科会（11/9）では
“室温18℃, 湿度40％以上が望ましい”
との見解が示されています。

豆知識③

【換気設備】

学校における換気設備は、「建築基準法（07年改訂）」で、★大規模改修等をおこなう場合に、**原則として機械換気設備の設置が義務づけられています。**

今こそ団結の時！この厳しい「感染拡大特別期」をひとりでしょいこまず、みんなで、この難局を乗り越えよう！

県教委「『感染拡大特別期』における対策について」を発出！
緊張感をもった感染防止対策の徹底をもとめる！

県教委は、11月24日に開催された「兵庫県新型コロナウイルス感染症対策本部会議」において、さらなる感染防止対策の徹底がもとめられたことから、同日、『感染拡大特別期』における対策について」（通知）を発出した。

通知では、①教育活動、②部活動、③心のケア、④その他について留意事項を示し、〝引き続きご苦労をおかけします〟という言葉とともに、緊張感を持って感染防止対策を徹底するよう依頼した。（一部抜粋）

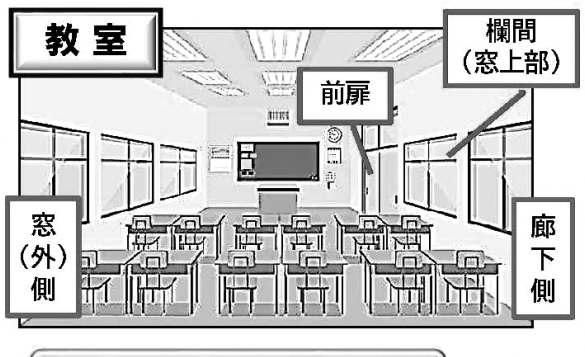
※通知をもとに改めて感染防止対策について考えましょう。詳しくは、教育ひょうご速報職場討議資料を参照。

県教委通知抜粋

1　教育活動
（1）**十分な感染防止対策**を実施したうえで、教育活動を行う。
　特に、県外で活動する場合においては、感染防止対策がとられていることを確認の上、実施時期、実施場所、参加人数、移動方法など十分に検討のうえ実施する。
　感染拡大特別期になり外出自粛など社会活動に一定の要請をすることから、感染拡大を予防するため、国の定めるステージ3や4、都道府県の発表する感染状況など客観的な感染状況を踏まえ、活動地域について慎重に選定する。
　併せて、修学旅行において感染予防の観点からも感染拡大地域への往来を自粛する。
（2）下記の感染防止対策を徹底する。
・各教室で可能な限りの間隔をとる。
・必要に応じてフェイスシールドを着用する。**（←県立学校のみ）**
・マスク着用を徹底する。
・毎日の検温、手洗いを徹底する。
・教室内も含め適切な温度管理等に十分留意しながら換気を行う。　など

寒い季節の感染防止対策

日頃、様々な感染防止対策にとりくまれていると思いますが、
寒い季節の感染防止対策として**「換気」**について考えてみましょう！



4種類（方法1～4）の換気方法について、**スーパーコンピュータ「富岳」**のシミュレーションの結果が報告されています。

〔方法1〕窓（外）－欄間
〔方法2〕窓（外：一部）－扉（対角）
〔方法3〕窓（外）－前後扉（10cm）
〔方法4〕窓（外）－前後扉

シミュレーション結果

・方法1と4（窓側20cm開放）では、**100秒程度**で空気の入れ替え可能！
・方法2と3では**500秒程度**で可能！
・方法2は、方法3より、窓解放面積が少ないにもかかわらず、効果は同程度

適切な換気方法

（「富岳」のシミュレーションでは、方法1・4の効果が高いけど・・・。）
今の季節、たくさん窓を開けると、**寒く**なります。風邪の心配も。

〝可能な限り常時〟換気をしましょう！
2方向の窓を同時に開けておこなうようにしましょう！
※「富岳」のシミュレーションでの秒数も参考にしよう。
Point **〝対角に開ける〟**と、効率よく換気ができます。
※寒い季節に、ふさわしい方法です。

第70次兵庫県教育研究集会
分科会の様子

11月14日（土）に開催された第70次兵庫県教育研究集会の分科会のようすを、来場者アンケートからまとめてお伝えします。

▲技術・家庭科教育分科会
紙紐を使ったかごづくりの様子

1 日本語教育

「読解力」向上に視点を当てた研究所員による授業実践報告と研究協議等。
・自分も同じようなとりくみをしていたが、うまくいかず悩んでいた部分があった。本日の分科会から、その解決策が見つかった。とても勉強になった（佐用）

2 外国語教育

これからの外国語教育で大切にしたいことについての協議等。
・外国語を小学校でどこまで定着させて中学校へ入学させたらいいのかプレッシャーがあったが、先生方の話を聞いて不安が解消された。小学校では英語を好きにさせる授業をめざす（宍粟）

3 社会科教育

第69次全国教研の環流等。
・コロナ禍でも、学校でできることがたくさんあることがわかった。研究のあゆみを止めないことが大事である（三木）

4 算数・数学教育

臨時休業中のとりくみ～オンラインを活用した数学の指導法～についての協議等。
・単に知識を伝えるだけの授業ならばオンラインで十分ということになるので、対面でなければならない意味のある授業を考えていくことが必要（洲本）

5 理科教育

興味関心をひくおもしろ実験、自作教材の交流等。
・実験では、子どもに返ったように不思議な気持ちを共有して楽しめた。子どもたちの「なぜ？」を引き出せるような授業づくりをしていきたい（豊岡）

▶紙コップと紐を使った実験の様子

6 美術教育

研究所員（小中）による「自画像」の実践発表等。
・今の学習指導要領に沿った美術教育は、「自分なりのスタイルで美術を楽しむ」ということと提案があったが、その通りだと改めて感じた（加西）

7 音楽教育

コロナ禍における音楽科の現状と課題「今後の方向性について～各地域・各校の現状と課題、悩みなどを共有します～」についての協議等。
・コロナ禍においてどのように授業をされているのか情報交換ができてよかった。コロナ禍だからできたことなど、参考になることをいろいろ教えていただくことができた（三木）

8 技術・家庭科教育

紙紐を使ったかごづくり等。
・小中での技術家庭科のあり方、今もとめられていることなど、普段なかなか知ることのできないことを知り、コロナ禍での授業のあり方など今後の授業に取り入れたい（揖龍）

9 保健・体育

保健学習「毎日の生活と健康」の授業実践、体育実技「体づくり運動（遊び）」の授業実践
・模擬授業を見ることができ、実際の様子、言葉の選択、発問の方法などを具体的に学ぶことができた。どうしてそう思うのか、どういう目的で授業をするのかを考えることが大切だと改めて感じた（朝来）

10 総合学習

「コロナは社会をどう変えた？探究活動から見えてきたものは…」についての協議等。
・「コロナだからできない」ではなく「コロナの今だからこそできる」と考えて、教職員も子どもも工夫すべき（加小）

11 自治的諸活動と生活指導（小・中）

コロナ禍における「学校現場の実態」あれこれ…～子ども、家庭、教職員、それぞれの「しんどさ」や「たくましさ」など～の協議等。
・大規模校や他校の現状、新型コロナウイルス感染症対策など、工夫しながらプラスもマイナスもありつつ、子どもたちと関わっている様子を聞くことができよかった（美方）

13 人権教育

今後、同和・人権教育をどのようにすすめるのかについての協議等。
・人権教育についての新たな課題や同和教育について、自分が普段あまり意識していなかった課題にふれ、人権問題を解消していくために教育の力が非常に重要であることを再認識した（加西）

14 インクルーシブ教育

インクルーシブ教育について現状（現場の実態、これまでの成果と課題等）報告等。
・みんなと一緒にいることが難しい子がいるなら、みんなといれる環境をつくること、その環境に変えることが大切（加小）
・学校の環境や教職員すべての考え方を見直し、改善していくことがインクルーシブ教育をよりよいものにしていくことだと改めて気づいた（多紀）

15 国際連帯・多文化共生の教育

外国にルーツを持つ児童・生徒・保護者の実態と支援のとりくみ（学力編・生活編）についての協議。
・困り感を放置せず声を上げる。教職員だけでなく、一番は児童の困り感を解消することを考えて行動したい。そのために外国にルーツのある児童が自分のクラスにもいるかもしれないという意識、そしてそのための対応がすべての児童を大切にする教育にもつながると思う（揖龍）

16 ジェンダー平等教育

LGBTsや性の教育に関する各校のとりくみについての意見交流等。
・教職員が正しく理解し、子どもたちがひとりで悩まない環境をつくり、多様性が尊重される社会にしていかないといけないことを子どもたちに伝えていくことが必要だと思った（多紀）

17 環境・公害・食教育

コロナ禍におけるひょうごの食教育のあり方についての協議等。
・孤食、偏食、個食などの食育、「地球を守る」という意味での本当の環境教育や環境体験は、自然学校だけでは不十分である。もっと真剣に環境を考えていかなければならない（神戸）

18 平和教育

各地域組合の平和教育のとりくみの交流等。
・まず、私たちの地域のことを学ぶことが大切という話が印象に残った。ここで学んだことを地域組合や分会で若い世代に伝えたい（伊丹）

19 メディア・リテラシー教育と文化活動

学校と地域をつなぐICT活用についての協議等。
・ICTを活用すれば、距離的・時間的な問題を解決でき、スタディログ（学習の足跡）を残すことで、個々に応じた学習をよりきめ細やかに提供することができると知り、ICTの魅力をより感じることができた（宝塚）

21 教育課程

コロナ禍における教育課程編成についての協議等。
・地区、学校ごとにいろいろな工夫があり、コロナ禍によるピンチを、行事の見直しや教職員や子どもの意識を変えるきっかけにしている報告を聞き、とても参考になった（南あわじ）

22 学校・地域における教育改革運動

コロナ禍から見えた学校・地域の実態についての協議等。
・「学校の問題、課題にあわせて人的配置をする必要がある」という意見があったが、その通りだと思う。教職員の善意にもとづくだけの教育では続かないという危機感を日々感じている。様々な意見を聞き、自分の働き方などを見つめ直す大切な機会になった（美方）

23 教育条件整備の運動

「等しく学べる教育環境とは」についての協議等。
・事務職員、教員、それぞれの立場からいろいろな話を聞くことができ、とても有意義な時間だった。事務職員から情報発信することの大切さを改めて感じた。しっかりコミュニケーションをとりながら情報共有し、教育環境の整備に努めたい（宍粟）

特ー　生きる力を育む教育

東日本大震災にかかる避難児童生徒に対する支援状況調査をふまえた協議等。
・『教育の創造的復興』この言葉をスローガンに、これからの教育課程の再編につなげていかなければならない。『心の健康』の学習時間の確保を強く訴え続けなければならないと感じた（加小）

▲各分科会会場において、検温、消毒、換気の徹底など、新型コロナウイルス感染症感染対策をおこなった